

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 学校名 | 東京都八王子市立由木西小学校（都道府県より記載ください） |
|-----|------------------------------|

- 1) 全校の教育方針である ESD の重要な要素と位置づけている
- ②) 全校の教育方針である環境学習の重要な要素と位置づけている
- ③) 自校の特色ある学習と位置づけている
- ④) 総合的な学習の時間に相応しいテーマと位置づけている
- ⑤) 子ども達の自然体験機会が減少する中で貴重な体験学習と位置づけている
- ⑥) 地域に開かれた学校を目指す一環の授業と位置づけている
- 7) 様々な震災を受けて防災・減災を学ぶ授業と位置づけている
- 8) 屋外での授業に学習効果が見られることに着目して取り組んでいる
- ⑨) 特別活動（児童会・生徒会等）として取り組んでいる。
- 10) その他（ ）

- 1) 気付き、驚き、不思議等の自然に対する豊かな感性を養うことができる  
具体的には、
  - ① 自然の中で伸び伸びと過ごすことで養われる感性
  - ② 森の多様性を前に生態系の繋がりを理解する感性
  - ③ 人の暮らしが自然と繋がっていることに思いを馳せる感性
- 2) 森の中で答えのない課題に取り組むことで教育的効果が高まる  
具体的には、以下のようなコミュニケーション力が養われる
  - ① 主体的な行動、探究心、自分の考えを発表する力を誘発できる
  - ② 教室では消極的な子どもが積極的に行動できる
  - ③ 子ども同士で助け合い、皆で成長しようという行動を誘発できる
- 3) 森での体験を通じて学んだことはエピソード記憶として長期記憶に繋がる
- 4) 森では子ども達の集中力が高まり、学習を進めやすい
- 5) 先生以外の地域の人等が学習に参加することで子ども達の視野が広がる
- 6) 森という地域資源を学ぶことで地域を知り、更に地域を誇りに思うことで、そこに住む自分自身の有用感が高まる
- 7) その他 ( )

3、学校の森の活動を行っている対象学年、年間時間数、授業科目等について  
(下記の表の該当する欄に年間時間数を記入)

| 科目等      | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 中1 | 中2 | 中3 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 国語       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 社会       |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |
| 算数・数学    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 理科       |    |    | 2  | 6  | 2  |    |    |    |    |
| 生活       | 6  | 6  |    |    |    |    |    |    |    |
| 音楽       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 図画工作・美術  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 2  |    |    |    |
| (技術・) 家庭 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| (保健) 体育  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 道徳       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 外国語 (活動) |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 総合的な学習   |    |    |    | 10 |    | 40 |    |    |    |
| 特別活動     | 5  | 5  | 5  | 5  | 5  | 5  |    |    |    |
| その他      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

特別活動で行っている場合の補足説明

行事として自然観察会や落ち葉拾い、全校で取り組むタケノコ掘り。  
低学年が食育として取り組む栗拾いや梅の実とり等がある。また、ここ  
には明記していないが余剰の時間を使って学校林に入り、学年独自の  
取り組みもしている。

4、活動場所の状況について (該当する番号に○：広さはおおよそで結構です)

- 1) 校庭の植栽木等のスペース (広さ      ha) を活用
- 2) 近隣の公園の植栽木等のスペース (広さ      ha) を活用
- ☒ 3) 学校の敷地内／隣接地にある森 (広さ 1.5 ha) を活用
- 4) 学校から徒歩30分圏内にある森 (広さ      ha) を活用
- 5) 学校から徒歩30分超圏にある森 (広さ      ha) を活用

5、学校の森の活動開始時期について (下線部に記入)

西暦 1973 年から (内、中断 西暦 2010 年から 2014 年まで)

(中断の理由：地域や保護者の力を借りた学校林の保全活動がなされなかった。

児童数減少と教育課程の多様化により活動に充てる時間の減少により)

6、指導者について（該当する番号に○）

- ☒ 1) 先生が主体  
2) 森林管理署、NPO、PTA等の先生以外が主体  
3) 先生と森林管理署、NPO、PTA等の先生以外の協同態勢  
4) その他（ ）  
上記2) または3) に該当する場合の森林管理署、NPO等の学外団体の具体名  
（ ）

7、PTAの関わりについて（該当する番号に○：複数回答可）

- ☒ 1) 安全な活動を行う為の森の整備についてボランティア協力  
2) 森の活動時の見守りについてボランティア協力  
3) 森の整備や備品の購入等の活動経費の支援協力  
4) 特段の支援はない  
5) その他（ ）

8、地域の協力の有無と内容について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 地域の協力  
☒ ① 有り    ② 無し  
2) 「有り」の場合の協力先の属性  
① 森林管理署    ② 森林組合    ③ 自治体    ④ NPO 等活動団体  
☒ ⑤ 地域住民    ⑥ その他（ ）  
2) 「有り」の場合の協力の内容  
☒ ① 安全な活動を行う為の森の整備についてのボランティア協力  
② 森づくりの専門的な領域等に関する指導の場面での協力  
③ ノコギリ、鎌等の貸出し、木工の材料等の提供等での協力  
④ その他（ ）

9、校長先生の関わりについて（該当する番号に○：複数回答可）

- ☒ 1) 積極的に推進役を果たしている  
☒ 2) 対外調整業務についてリーダーシップを発揮している  
3) 学校の森を担当する先生の意向を尊重して、ある程度任せている  
4) その他（ ）

10、教育委員会の関わりについて（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 教育委員会として積極的に支援  
☒ 2) 教育委員会としてはニュートラル

11、学校の森に必要なとなる経費の有無と程度（該当する番号に○）

1) なし

☒ 2) あり ☞ 以下の該当する年間経費に○

① 1万円未満 ② 1万円以上 ③ 3万円以上 ④ 5万円以上

☒ ⑥ 10万円以上（具体的には、平成28年度の助成金は約110万円）

12、経費の支出先について（該当する番号に○：複数回答可）

☒ 1) 指導者謝礼

2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用

3) 児童／生徒の森までの往復交通費

☒ 4) 道具の購入、樹名板等の林内設置物等の一時経費

5) その他（樹木の伐採等の工事費）

13、12の費用の捻出について（該当する番号に○：複数回答可）

1) 学校運営費で賄う

2) 参加費として児童の家庭から集金

3) PTAの寄付

4) 市町村の予算（教育委員会、教育委員会以外の森林整備セクション等）

☒ 5) その他（学校運営協議会の傘下にある由木西小グリーンファミリーズが助成金を申請し、執行している。道具等は、学校の教育活動でも使用している。）

14、数年に一度の大規模な森林整備費用の有無と対処法（該当する番号に○）

1) 発生しない )

☒ 2) 発生する

① その場合の整備の内容（健全な森にしていくための間伐作業等）

② 必要金額（平成28、29年度で125万円）

③ その資金の捻出先（公益社団法人国土緑化推進機構の助成金）

15、学校の森の平成28年度の活動と前年度の活動比較（該当する番号に○）

☒ 1) 前年度より進化

具体的には（授業の中で学習する時数の増。緑の少年団の発足。由木西小グリーンファミリーズの活動の定例化）

2) 前年度より後退

具体的には（ )

3) 前年度と変わらない

4) 平成28年度から開始

5) 前年度のことは判らない

6) その他 ( )

15、活動で困っていることについて（該当する番号に○：複数回答可）

1) なし

2) フィールドが遠い

3) フィールドが整備されていない

4) 登る際の傾斜が急である

☒ 5) 指導者の協力が継続できるかどうか不透明

6) 森の整備の担い手がいなくなって活動の継続が不透明

7) 運営上の経費負担が大きく予算を継続できるか不透明

8) 安全管理面から活動内容が制約されること

9) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる恐れがある

☒ 10) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下

11) その他 ( )

16、自由記入欄

学校を取り巻く様々な課題は年々増えている。簡単に言うと、やらなくてはならないことが増え、やりたいことができなくなっているのが現状である。学校というフレームで森林環境教育を収めようとするのではなく、もっと大きなフレームを作って学校林の価値を共有化する取り組みをする必要があると考えている。

学校経営方針など文書化されたものが提出可能であればコピーを同封して下さい。

以上アンケートに回答頂き、ありがとうございました。